（マルコ 一一の二七—三三）

11 27 かくて 彼等イエルサレムにへと到る。而して［イエス］宮に於て、歩み居れるに、祭司長文學士・長老等彼の許に來りて、28 彼に言ひ居たり。

……。

（マタイ 二一の二三—二七）

……。

21 23 かくて［イエス］宮に入りし後、祭司長民の長老等教へ居れる彼に近寄りて、言へるは、

……。

（ルカ 二〇の一—八）

……。

20 1 さる程に、一日、［イエス］宮に於て、人民を教へ、かつ福音を宣べ居れるに、祭司長・文學士等 長老と共に立向ひ、2 而して 彼に向ひて、言へり。曰く、

……。

如何なる權威に於て、汝此等の事を爲し居るか。或は此等の事を爲すやう誰が汝にこの權威を與へしや。

29 されど イエス 彼等に言へり。

……。

如何なる權威に於て、汝此等の事を爲し居るか。

而して 誰が この權威を 汝に與へしや。

24 されど イエス 答へて、彼等に言

汝 我等に言へ。如何なる權威に於て、汝 此等の事を爲し居るか。或は この權威を 汝に與へし 彼は 誰なるか。

3 されど 彼 答へ、彼等に向

我も一言汝等に質問せん。而して汝等我に答へよ。さらば我も亦汝等に言はん。我如何なる權威に於て、此等の事を爲し居る

へり。我も亦一言汝等に言はん。もし汝等其を我に言はば、我も亦汝等に言はん。我如何なる權威に於て、此等の事を爲し居る

ひて、言へり、我も亦(一)言汝等に問はん。而して汝等我に言へ。

……

……

……

……

……

かを。
11 30 ヨハネの洗禮は天より出でしものなりしか。或は人間よりなりしか。汝等我に答へよ。
31 爰に於て、彼等相互に論じ居りて、言へるは、

かを。
21 25 ヨハネの洗禮は何處よりなりしか。天より出でしか。或は人間より出でしか。

……

……

さて彼等自ら論じ居りて、言へるは、

20 4 ヨハネの洗禮は天より出でしものなりしか。或は人間より出でしか。

……

……

5 さて彼等相互に謀りて、言へるは、

もし　我等　「天
より出でしなり」
と言はば、
彼　言はん、「然
らば　何の理由
にて　汝等　彼
を信ぜざりしか」

11 32 されど　我等
人間より出でし
なり」と言はば、

もし　我等　「天
より出でしなり」
と言はば、
彼　我等に言は
ん、「然らば　何
の理由にて、汝
等　彼を信ぜざ
りしか」。

21 26 されど　もし
我等　「人間より
出でしなり」と言
はば、

もし　我等
「天より出でし
なり」と言はば、
彼　言はん、
「何の理由にて、
汝等　彼を信
ぜざりしか」。

20 6 されど　もし
我等　「人間よ
り出でしなり
と言はば、

……。
彼等　群衆を恐れ
居たり。そは　彼
等諸共に、實際
ヨハネを　預言者
なりしと認め居た
ればなり。33 かくて
彼等　答へて、イエ
スに言ふ。
我等　知らず。
イエスも　亦　彼等

我等　群衆を恐
る。
そは　凡ての
者は、ヨハネ
を　預言者と
して、認め居
ればなり。27 か
くて　彼等
イエスに答へて
言へり。
我等　知らず。
彼も　亦　彼等

人民諸共に
我等を石たん。
そは　彼等は　ヨハ
ネを　預言者なりし
と確信したればなり。
20 7 かくて　彼等　そ
の　何處よりなりし
かを知り得ざりしと
答へぬ。
8 イエスも　亦　彼

に言ふ。

さらば我も亦如何なる權威に於て、此等の事を爲し居るかを、汝等に言はず。

に言へり。

さらば我も亦如何なる權威に於て、此等の事を爲し居るかを、汝等に言はず。

等に言へり。

さらば我も亦如何なる權威に於て、此等の事を爲し居るかを、汝等に言はず。

七　善惡の二子（マタイ　二一の二八―三二）

21 28 されど汝等之を何と思ふや。人二人の兒を有ち居たり。

彼長（男）に近寄りて、言へり。

「兒よ！汝退きて、今日、葡萄園に於て、働け」。

29 されど彼答へて、言へり。

「我！（父）君よ！」。

而も彼赴かざりき。

30 されど彼次（男）に近寄りて、同樣に言へり。

されど彼答へて、言へり。

「我欲せず！」。

後程彼思ひ直して、赴けり。

31 二人の中、誰か父の意を爲しや。

彼等言ふ。

「後者！」。

イエス　彼等に言ふ。

アーメーン！　我　汝等に言ふ。

それ　稅吏・娼妓等は　汝等に先立ちて、神國にへと、進み居るなり。

21 32 そはヨハネ　義の道に於て、汝等の許に來りしかど汝等　彼を信せず、反て　稅吏・娼妓等　彼を信じけるに、

汝等　見ながら、後程も尙　彼を信じ得るまでに、思ひ直さざりければなり。

八　惡き小作人

（マルコ、マタイ、ルカ）

（マルコ の一一―一二）

12 1 **（イエス）**　又　比喩に於て、彼等に語り始めぬ。

人　葡萄園を植付け、籬を環らし、溜穴を穿ち、櫓を建て、此を　農夫等に

イエサヤ書五の一以下

石灰石より成れる小山の中腹或は額の斜に傾けける處に二の穴を穿ち、上なる穴に葡萄の房を

（マタイ の二一―四六）

21 33 汝等　他の比喩を聞け。

葡萄園を植付け、此に　籬を環らし、此に於て、搾穴を穿ち、櫓を建て、此を　農夫等に貸

（ルカ の九―一九）

20 9 **（イエス）**　又　この比喩を、人民に向ひて、言ひ始めぬ。

人　葡萄園を植付け、……此を　農夫……。

積み、之を足にて踏潰し、滴る汁は流れて、下なる穴に入るものなり。この上の穴を搾穴と云ひ下の穴を溜穴と云ふ。

貸して、旅行せ
り。
12 2 かくて 時期に
於て、葡萄園の
果の（割前）を 農
夫等より受取ら
んとて、
奴隷を 農夫等
の許に派遣せし
に、
3 彼等 彼を 捕へ

して、旅行せし程
の家主なる人あり
き。
21 34 さて 果期
近づきし時、
その果を受取
らんとて、
農夫等の許に
彼の奴隷等を
派遣せしに、
35 農夫等 彼の

等に貸して
久く旅行せ
り。
20 10 かくて 時期に
於て、彼等が
葡萄園の果の（割
前）を 彼に與ふ
るやう、
彼 農夫等の許
に、奴隷を遣し
しに、
農夫等 打擲し

て、打擲し、空
手にて、彼を逐出
せり。
4 彼 再度、他の
奴隷を 彼等の
許に派遣せしに、
彼等 其（者）をも
亦 頭に石ち、
而して 侮辱せ

奴隷等を捕へ
て、一人を打
擲し、一人を
殺し、一人を
石てり。
36 彼 再度、最
初のよりも多
數の他の奴隷
を派遣せしに、
（農夫等） 彼等
にも 亦 同
様に爲せり。

空手にて、彼を
外部に逐出せり。
11 彼 又 更に別
の奴隷を遣しし
に、
彼等 其（者）をも
亦 打擲し、侮
辱し、空手にて

り。

12 5 彼　又　他(の奴
隷)を派遣せしに、
彼等　其(者)をも
殺せり。
又　他の多數の
者をば、彼等
或者を打擲し、
或者を殺し居た
り。

……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……。

外部に逐出せり。
20 12 彼　又　更に第
三(の奴隷)を遣し
しに、
彼等　此(者)をも
傷けて、投出せ
り。

……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……。

6 彼　尚　一人の
愛子を有ち居た
りしが、
「彼等　わが子を
敬ふならん」と言
ひて、
最後に、「其子」を
彼等の許に派遣
せり。
7 されど　かの農
夫等　相互に言
へり。

21 37 さて　後程、
彼、
「彼等　わが子
を敬ふならん」
と言ひて、
彼の子を　彼
等の許に派遣
せり。
38 されど　農夫
等　子を見て、
自ら言へり。

13 さて　葡萄園の
主人　言へり。
「我　何を爲さん
か。　我　わが愛
子を遣さん。
彼等　慥に　此
を敬はん」。
14 されど　農夫等
彼を見、相互に
論じて、言へるは、

「此は　相續人なり！
いざ　來れ。我等をして　彼を殺さしめよ。
さらば　家督は我等の有たらん」
12 8 乃ち　彼等　捕へて、彼を殺し、而して彼を葡萄園の外部に投出せり。
9 葡萄園の主人何を爲すべきか、

……。
彼　來らん。而して　農夫等を亡ぼさん。

「此は　相續人なり！
いざ　來れ。我等をして、彼を殺さしめよ。
さらば　我等　彼の家督を有つことを得ん」
21 39 乃ち　彼等　捕へて、彼を葡萄園の外部に投出し、而して殺せり。
40 さらば葡萄園の主人來らん時、彼何をかの農夫等に爲すべきか。

……。
41 彼等　イエスに言ふ。
無慈悲なる者！
無慈悲に、彼　彼等を亡ぼさん。

「此は　相續人なり！
家督の　我等が有と成るやう、
我等をして、彼を殺さしめよ」。
20 15 乃ち　彼等　彼を葡萄園の外部に投出して、殺せり。
さらば　葡萄園の主人　彼等に何を爲すべきか。

……。
16 彼　來らん。
而して　この農夫等を亡ぼさん。

而して　葡萄園を他の者等に與へん。

……。

……。

……。

……。

而して　その時期に於て、果を償ふ程の他の農夫等に、彼葡萄園を貸さん。

……。

……。

……。

……。

而して　葡萄園を他の者等に與へん。

されど　彼等聞きて、言へり。その成らざらんことを！

20 17 されど［イエス］彼等を眺め詰めて、

21 42 イエス　彼等に言ふ。

……。

12 10 汝等　未だ　この書を讀まざりしか。

［建築士等の拒みしところの石！

此（石）角の頭にと成りぬ！

11 此　ヤーヱより臨めり！

而も　我等の目

汝等　未だ曾て書に於て、讀まざりしか。

［建築士等の拒みし所の石！

此（石）角の頭にと成りぬ！

此　ヤーヱより臨めり！

而も　我等の目言へり。

さらば　この記されたるは何なるか。

［建築士等の拒みし所の石！

此（石）角の頭にと成りぬ！］。

……。

目には奇妙なり!」
……
……
……。
……
……
……
……
……
……。
……
……

には奇妙なり!」。
21 43 この理由にて、我汝等に言ふ。それ神國は汝等より奪はれん。而してその果を結び居る國民に與へられん。
44 而してこの石の上に落つる彼

……
……。
……
……
……
……
……。
……
……
20 18 凡そその石の上に落つる彼は

……
……
……。
……
……
……。
12 12 かくて彼等「イエス」を取押へんと求め居たれども、群衆を恐れぬ。そは「イエス

は必ず細片に碎かれん。されどもし(この石)誰の上に落つるとも、必ず彼を微塵にせん。
45 かくて祭司長パリサイ人等「イエス」の比喩を聞き、彼等に就いて、彼の言へることを

必ず細片に碎かれん。されどもし(その石)誰の上に落つるとも、必ず彼を微塵にせん。
19 かくて文學士祭司長等即刻、彼に手を掛けんと求めしかど、人民を恐れぬ。そは

の）この比喩を彼等に向ひて、言ひしことを、彼等識りければなり。而して彼等彼を遺して、去れり。

識れり。21 46 而して彼等は彼を取押へんと求め居れるも、彼を預言者と認め居りしを以て、群衆を恐れぬ。

……。

（イエスの）この比喩を、彼等に向ひて言ひしことを、彼等識りければなり。

……

九　婚筵の比喩

（マタイ二二の一—一四）

（ルカ一四の一五—二四）

マタイ

14 15 さて共に食に就き居れる彼等の或者、此等の事を聞きて、［イエス］に言へり。幸福なるかな、誰にても、神國に於て、パンを食せん者！

22 1 かくてイエス答へて、再度比喩に於て、彼等に言へり。曰く、

16 されど［イエス］彼に言へり。

2 天國は恰も其子（の爲）に、婚筵を設けし程の王

或人大なる晩餐を設け居りて、多數の者を招け

たる人に似たり。
22 3 婚筵にへと招かれたる彼
等を呼ばんとて、彼その
の奴隷等を派遣せり。
而も 彼等 來ることを
欲せざりき。
4 彼再度他の奴隷等を
派遣して、言へるは、
「汝等 招かれたる彼等に
言へ、

り。
14 17 而して 招かれたる彼等
に言はんとて、晩餐の時
刻に、彼その奴隷を派
遣せり。
…………
…………
…………
…………
…………
…………

「見よ！ 我 わが午餐を
整へたり。
我わが牛と肥たる獸と
を屠りたり。
かくて萬事 整へり。
汝等婚筵にへと來れ」
5 されど彼等顧ずして
去れり。
げに一人は己が畠に
へと、

…………
…………
…………
「汝等來れ。それ 整へ
り」。
18 而も 凡ての者、一人一
人辭し始めぬ。
最初の者彼に言へり。
「我畠を買ひけれは、出
往きて、此を見ざる可ら
ざるなり。

一人は　彼の商賣の爲に、

22 6 されど餘の者は彼の奴隷等を取押へて、虐げ、而して殺せり。

7 さて王怒り、彼の兵隊を遣して、其等の殺人者を亡ぼし、而して彼等の町を燒けり。

8 夫より（王）彼の奴隷等に言ふ。「げに婚筵は整へり。されど招かれたる彼等は資格あらざりき。

9 故に汝等道の衢に進め。而して汝等見出す程の者を、婚筵にへと呼べ」。

10 かくてかの奴隷等道

我汝に請ふ。我を免せ」

14 19 別の者も亦言へり。「我五耦の牛を買ひければ、此等を試みんとて、進み居るなり。我汝に請ふ。我を免せ」

20 別の者も亦言へり。「我妻を娶れり。かつこの理由にて、我來ること能はず」。

21 かくて奴隷近づきて此等の事を、その主人に告げぬ。

夫より家主怒りて、彼の奴隷に言へり。「汝、出でて、速に町の大通や小路にへと往け。而して貧乏人・癈疾者・盲人・跛者等を、此處へ引入れよ」。

22 而して奴隷言へり。

にへと出往きて、惡き者をも善き者をも、彼等見出しし所の者一同を集めぬ。

かくて婚禮の座敷は客にて滿されぬ。

[22] [11] されど王客を見んとて、入來り、其處に婚禮服を着ざる人を見て、

[12] 彼に言ふ。

「朋よ！如何なれば、汝故意に婚禮服を着ずし

「主よ！汝の命せし程の事を爲したれども、尙塲處あり」。

[14] [23] 主人又奴隷に向ひて言へり。

『わが家の滿さるやう、汝出でて、道や籬の下にへと往け。

而して（人人の）入來るやう、汝（彼等を）强ひよ。

[24] そは我汝等に言へばなり。

て、此處へ入來りしぞ」。

されど彼嘶めり。

[13] 其時、王給仕等に言へり。

「汝等彼の足と手とを縛りて、外部の闇黑にへと投出せ。

其處に、悲泣と切齒と有らん。

[14] そは多數の者は、招かれたれども、少數の者は選まれたる

「それかの招かれたる男等の一人だも、決してわが晩餐を味ふまじ』。

……。

婚筵の比喩（マタイ、ルカ）

者なればなり。……。

一〇 パリサイ人の質問

（マルコ一二の一三―一七）

12 13 かくて彼等言にて、[彼]を捉へんとて、パリサイ人・ヘロデ黨の或る者等を、

（マタイ二二の一五―二二）

22 15 其時、パリサイ人等進み、如何にして、[イエス]を、言に於て陷れんかと、協議を遂げ、

16 而して[ヘロデ黨の者等と共に、彼等の弟子等を、[イエス]に派遣す。曰く、

（ルカ二〇の二〇―二六）

20 20 かくて彼等[イエス]を、總督の管理と權威とに引渡し得るやう、狙ひ詰めて、彼の言を捉へんと、己を義人に裝へる間者等を派遣せり。

21 而して彼等[イエス]に質問して、言へるは、

[イエス]の許に派遣す。14 而して彼等來りて彼に言ふ。

先生！我等知る。それ汝は眞實なる者なり。而して汝は誰をも憚らざる

先生！我等知る。それ汝は眞實なる者なり。而して神の道を、眞理に

先生！我等知る。それ汝は正く言ひ、かつ敎へ居るなり。

なり。
そは汝人人の面を眺め居らざればなり。
されど眞理に基きて、神の道を敎へ居ればなり。
……
……。
……
……

基きて、敎へ居るなり。
而して汝は誰をも憚らざるなり。
そは汝人の面を眺め居らざればなり。
22 17 故に汝我等に言へ、汝何と思ふ

而して汝は(人人の)面に拘泥せざるなり。
されど眞理に基きて、神の道を敎へ居るなり。
……
……。
……

……。
税をカエサルに與ふるは可きか。
或は可からざるか。
我等與ふべきか。
或は故意に、與ふべからざるか。
12 15 されど[イエス]

か。
税をカエサルに與ふるは可きか。
或は可からざるか。
……
……。
……
……
……
18 されど……。イエス

……。
20 22 税をカエサルに與ふるは可きか。
或は可からざるか。
……
……。
……
……
……。
23 されど(イエス)

彼等の詭計を知りて、彼等に言へり。

何故に汝等我を試むるか。……。

我が見らるやう、汝等我にデナリヨを齎せ。

12 16 彼等（デナリヨを）齎しければ、（イエス）彼等に言ふ。

この像と銘とは誰のなるか。

彼等彼に言へり。

カエサルの。

17 イエス言へり。

汝等カエサルの物をばカエサルに、且神の物を

彼等の惡意を識りて、言へり。

何故に我を試むるか。汝等偽善者！

22 19 汝等我に税の通貨を示せ。

彼等デナリヨを彼の許に齎しければ、

彼等の奸策を悟り、彼等に向ひて、言へり。

……。

……。

20 24 汝等我にデナリヨを示せ。

……。

……。

ス）彼等に言ふ。

この像と銘とは誰のなるか。

彼等彼に言へり。

カエサルの。

17 イエス言へり。

汝等カエサルの物をばカエサルに、且神の物を

ば、（イエス）彼等に言ふ。

この像と銘とは誰のなるか。

21 彼等言ふ。

カエサルの其時、イエス彼等に言ふ。

さらば汝等カエサルの物をばカエサルに、且神の物をば

……。

其に誰の像と銘と在るか。

彼等言へり。

カエサルの

25 [イエス] 彼等に向ひて、言へり。

然らば汝等カエサルの物をばカエサルに、且神の物をば

ば　神に償へ。

神に償へ。

かくて彼等甚く彼を怪み居たり。

22 22 かくて彼等聞きて、怪み、彼を遺して、去れり。

20 26 かくて彼等人民の前にて、この言を咎むること叶はざりき。かつ彼等彼の答を怪みて、默しぬ。

一一　サドカイ人の質問

（マルコ一二の一八―二七）

12 18 時に、「復活は

（マタイ二二の二三―三三）

22 23 かの日、「復活は

（ルカ二〇の二七―三八）

20 27 さて「復活は

申命記二五の五

有られじ」と言へる程のサドカイ人等「イエス」の許に來り、彼に質問して、言へるは、

19 先生！

モーセは「もし或者の兄死にて、妻を遺し、而も兒を遺し得ざりしならば、

有られじ」と言ひ居るサドカイ人等「イエス」に近寄り、彼に質問して、24 言へるは、

先生！

モーセ言へり。「もし誰にても、兒を有ち得ずして死なば、彼の

有られじ」と言ひ居る所の或るサドカイ人等近寄り、「イエス」に質問して、

28 言へるは、

先生！

モーセは「もし或者の兄妻あれども、死にて而も此者無兒ならば、彼の

彼の弟その妻を取り、而して彼の兄に胤を興すやうに」と我等に書けり。

12 20 爰に七人の兄弟ありき。而して第一の者妻を取れり。而も死にて、

22 25 さて我等と共に、七人の兄弟ありき。而して第一の者結婚したる後、死ね

弟妻を取り、而して彼の兄に胤を興すやうに」と我等に書けり。

20 29 故に（爰に）七人の兄弟ありき。而して第一の者妻を取りしが無兒にて、

胤を遺さざりき。

21 かくて第二の者も彼女を取れり。而も胤を遺し得ずして、死ねり。第三の者も亦同樣にせり。

22 而も彼等・七人胤を遺さざりき。凡ての者の最後に、女も亦

り。而も胤を有ち得ずして、その妻を彼の弟に遺せり。

26 第二の者も、第三の者も、第七の者までも、同樣にせり。

27 さて凡ての者の後に、女

死ねり。

30 かくて第二の者も、第三の者も彼女を取れり。

31 さて彼等・七人同樣にしたれども、亦兒を遺さざりき。

32 後に、女も亦死ねり。

死ねり。

12 23 復活に於て、（彼女は）彼等の誰の妻なるべきか。

そは　彼等七人彼女を妻として、有ちければなり。

24 イエス　彼等に言へり。

この理由にて、汝等書をも神の力をも知らんとせずして、自ら迷ひ居るに非ずや。

……。

25 そは、死人の中より、彼等復

も死ねり。

20 23 さらば復活に於て、（彼女は）七人の誰の妻なるべきか。

そは　凡ての者彼女を有ちければなり。

29 されど　イエス　答へて、彼等に

20 35 さらば復活に於て、女は彼等の誰の妻と成り居るか。

そは　彼等七人彼女を妻として、有ちければなり。

34 かくて　イエス　彼等に言へり。

言へり。

汝等、書をも神の力をも知らんとせずして、自ら迷ひ居るなり。

……。

30 そは　復活に於て、彼等

……。

35 されど　彼世と死人の中よりの

此世の子等は娶りもし、嫁ぎもす。

活せし時、彼等娶らず、嫁がず、……

娶らず、嫁がず、……

反て天に於ける使者等の如くなればなり。……

復活とに達する資格ありと認めらるる彼等は、娶らず、嫁がざるなり。

20 36 そは彼等最早死ぬること能はざればなり。そは彼等は使者等と等しき者なればなり。

……

……

……

……。

12 26 されど死ねる者の甦る事に就ては、モーセの書に於て、セネの條に如何に神彼に言ひしかを、汝等未だ讀まざりしか。曰く、

而して彼等は復活の子にして神の子なればなり。

37 されど死ねる者の復活する事に就ては、モーセセネの條に示して、言ひ居るが如し。

ざりしか。曰く
「我は・アブラハムの神・イサクの神・ヤコブの神」。
12 27 (神は)死ねる者の神に非ず。されど活ける者の(神)なり。汝等大に迷ひ居るなり。

22 32 「我はアブラハムの神・イサクの神・ヤコブの神なり」(神は)死ねる者の神に非ず、されど活ける者の(神)なり。

20 38 「アブラハムの神イサクの神・ヤコブの神」。神は死ねる者の(神)に非ず。されど活ける者の(神)なり。そは凡ての者は彼に活き居ればなり。

33 かくて群衆聞き、「イエス」の教へに、膽を潰し居たり。

一二 最大の命令

（マルコ 一二の二八—三四）

12 28 時に、文學士等の一人議論し居れる彼等を聞きて、

（マタイ 二二の三四—四〇）

22 34 さてパリサイ人等(イエスの)サドカイ人等を噤ましめし事を聞き

（ルカ 一〇の二五—二八、二〇の三九—四〇）

10 25 時に、見よ！或る法學士立

（イエスの）良く彼等に答へし事を知り、近寄りて、彼に質問せり。

……。

凡ての中の第一は如何なる命令なるか。

12 29 イエス答へぬ。

それ第一は

て、共に集りけるが、

22 35 彼等の中の一人の法學士［イエス］を試みて、質問せり。

36 先生！律法に於て、最大なるは如何なる命令なるか。

……。

……。

……。

……。

上り、巧に［イエス］を試みて、言へるは、

先生！何を爲して、我永遠の生命を嗣ぐべきか。

10 23 されど［イエス］彼に向ひて、言へり。律法に於て、何と記されたるか。汝如何に讀み居るか。

27 されど彼答へて、言へり。汝汝の神ヤーヱを愛すべし。汝の全心より、

一人 詩篇一八〇

此なり。

「聞け。汝イスラエル！我等の神ヤーヱは一のヤーヱなり。

30 汝汝の神ヤーヱを愛すべし。汝の全心より、

……。

……。

……。

……。

37 されど［イエス］彼に言へり。汝汝の神ヤーヱを愛すべし。汝の全心に於て、

利末記一九の一八

汝の全魂より、
汝の全念より、
汝の全力より。
……
……
……。

12 31 第二は此なり。
「汝己の如く汝の隣人を愛すべし」。

汝の全魂に於て、
汝の全念に於て。
……
……
……

22 38 此は大なる而も第一の命令なり。
39 第二も似たる此なり。
汝己の如く、汝の隣人を愛すべし。

汝の全魂に於て、
汝の全力に於て、
汝の全念に於て。
……
……
……。
……
……
……。
かつ己の如く汝の隣人を愛すべし）。

此等よりも大なる他の命令は有らざるなり。

マルコ

10 28 [イエス] 彼に言へり。
汝正確に答へぬ。
汝此を爲せ。
さば汝活きん。

12 32 文學士 [イエス] に言へり。
20 39 されど文學士の或る者等答へて言へり。

ルカ

22 49 全律法も預言者等も此等二の命令に絡まり居るなり。

申命記四の三五

サムエル前書一五の二二

先生！
汝眞理に基きて、良く言へり。
それ彼は一なり。彼の外に、他（の神）在らず。
12 33 而して全心より、全智より、全力より彼を愛する事、
又己の如く、隣人を愛する事は、凡ての燔祭・犧牲にも優れり。
34 かくて イエス 彼の賢く答へしことを見て、彼に言へり。
汝は神國より遠からざるなり。

ルカ

先生！
汝良く言へり。

夫より、最早、一人だも敢て［イエス］に質問し居らざりき。

（マルコ 一二の三五—三七）

一三 ダビドの子か主か

（マタイ 二二の四一—四六）

20 40 そは彼等最早、何をも敢て［イエス］に質問し居らざりければなり。

（ルカ 二〇の四一—四四）

12 35 かくて イエス 宮に於て教へ居れる時、答へて、言ひ居たり。

22 41 さて パリサイ人等集りたる時、イエス 彼等等に質問して、言へる

20 41 されど（イエス）彼等に向ひて、言へり。

ダビドの子か主か（マルコ、マタイ、ルカ）

如何なれば、文學士等は言ひ居るか。

「メシヤはダビドの子なり」。

12 36 ダビド聖靈

22 42 メシヤに就いて汝等何と思ひ居るか。彼は誰の子なるか。彼等イエスに言ふ。ダビドの。

43 彼彼等に言ふ。然らば如何に

詩篇一一〇の一

此は詩人がダビドかマカビー家のシメオンを讃したるものなり。

に於て、自ら言へり。

「ヤーヱわが主に言へり。汝我が右に坐せよ。我汝の敵等を汝の足の下に置くまで」。

37 ダビド自ら

ダビドの子か主か（マルコ、マタイ、ルカ）

して、ダビド靈に於て、彼を「主」と呼ぶか。

44 「ヤーヱわが主に言へり。汝我が右に坐せよ。我汝の敵等を汝の足の下に置くまで」。

45 故にもしダビ

如何なれば彼等言ひ居るか。

「メシヤはダビドの子なり」。

20 42 そはダビド

詩の書に於て、自ら言へばなり。

「ヤーヱわが主に言へり。汝我が右に坐せよ。

43 我汝の敵等を汝の足の下に置くまで」。

44 故にダビド

彼を［主］と言ふ。

さらば彼如何にして、［ダビド］の子なるか。

かくて大なる群衆喜びて、［イエス］に聞き居たり。

22 46 かくて一人だも、［イエス］に、（一）言も答へ居ること能はず、かつ何人もかの日より、最早、敢て彼に質問せざりき。

彼を［主］と呼ぶ。

さらば彼如何にして、［ダビド］の子なるか。

彼を［主］と呼ばば、

彼如何にして、［ダビド］の子なるか。

一四　寡婦のレプト

（ルカ　二一—四）

（マルコ　一二の四一—四四）

21 1 さて（イエス）眺め上げて、彼等の獻物を賽錢函に投じ居る富者等を見、2 又其處に、レプト二投じ居る・或る貧き寡婦を見て、3 言へり。

12 41 かくて（イエス）賽錢函に向ひて、坐し、群衆の如何に、錢を賽錢函にへと投じ居るかを眺め居たり。而して多數の富める者は多額を投じ居たりしが、42 一人の貧き寡婦來りて、レプト二、即ち一クアツラに當るものを投せり。43（イエス）彼の弟子等を呼寄せて、彼等に言へ

「レプト」は「薄皮」の義にて、銅錢の薄き所より言ふ。約我が二厘なり。「クアツラ」は「四分の一」の

義にて、一アスの四分の一なり。約我が五厘なり。

り。

アーメーン！ 我 汝等に言ふ。

それこの貧き寡婦は 賽錢函に投じ居る彼等一同よりも多額を投せり。

12 44 そは凡ての者は、彼等に有餘る中より、投せり。

されど此女！ 此女は乏しき中より、その有ち居たる程の一切を、

誠に 我 汝等に言ふ。

それこの貧き寡婦は 凡ての者よりも多額を投せり。

21 4 そは此等一同は、彼等に有餘る中より、獻物を投せり。

されど此女！ 此女は乏しき中より、その有ち居たる程を、

即ち 彼女の生計の全部を投じければなり。

一五 ザイス山上の預言

（マルコ 一三の一—三七）

（マタイ 二四の一—二四・九下—一三・一五—二九上・三〇上・二九下—三〇下—四四）

（ルカ 二一の五—二一、一七の三一—三二、二一の二二—二四、一七の二〇—二五・三七、二一の二五—三三、一七の二六—三〇・三三—三五、二一の三四—三六、一二の三九—四〇、二一の三七—三八）

即ち 彼女の生計の一切を投じければなり。

13 1 かくて［イエス］宮より進み出づる時、彼の弟子等の一人彼に言ふ。

先生！

24 1 かくて［イエス］宮より出でて、進み居たるに、彼の弟子等、宮に就いて

21 5 かくて或る者等宮に就いて「良き石と

見よ！　如何に（巨大なる）石ぞ！　如何に（壯觀なる）建物ぞ！

13 2 イエス　彼に言へり。

汝　此等の大なる建物を眺むるか。

此處には、決して崩されずして石は石の上に

の建物を彼に示さんとて、近寄りしが、24 2 [イエス] 答へて、彼等に言へり。

汝等　此等・凡ての物を眺めざるか。

此處には決して崩されずして、石は

奉納物とにて、飾られたり！」と言へる時、21 6 (イエス) 言へり。

汝等　視る所の此等の物！

それ日來らん。その日、

此處には、崩されずして、石は

遺されじ。

13 3 かくて [イエス] ザイス山に（登り）、宮に向ひて、坐せる時、ペツロ・ヤコブ・ヨハネ・アンヅレ密に彼に質問し居たり。

汝　我等に言へ。

4 何時、此等の事の有るべきか。

石の上に遺されじ。

24 3 さて [イエス] ザイス山上に坐せる時、弟子等密に彼に近寄りて、言へるは、

汝　我等に言へ。

何時、此等の事の有るべきか。

石の上に遺されじ。

21 7 さて彼等 [イエス] に質問して、言へるは、

先生！　さらば何時此等の事の

バルーシヤはヘレン語なり。

又凡て此等の事の遂げられんとする時、證徴は如何。

13 5 されど イエス彼等に言ひ始めぬ。何人も汝等を迷はさざるやう汝等眺め居れ。

6 多數の者「我なり！」と言ひ、……

24 4 かくて イエス答へて、彼等に言へり。何人も汝等を迷はさざるやう汝等眺め居れ。

5 そは多數の者「我は……メシヤなり！」と言ひ、

又此等の事の成らんとする時の證徴は如何。

21 3 されど［イエス］言へり。汝等迷はされざるやう眺め居れ。

そは多數の者「我なり！時期は近づきたり！」と言ひ、

わが名を冒して來らん。

而して彼等多數の者を迷はさん。

7 されど汝等戰爭と戰爭の

わが名を冒して來るべければなり。

而して彼等多數の者を迷はさん。

6 されど汝等將に戰爭と戰

9 されど汝等戰爭と騷亂とを

噂とを聞く時も、……。

汝等狼狽する勿れ。これ起らざる可らざるなり。されど これ未だ終末に非す。……。

爭の噂とを聞かん。汝等注意せよ。汝等狼狽する勿れ。そは これ起らざる可らず、されど これ未だ終末に非ざればなり。……。

聞く時も、……。

汝等狼狽する勿れ。そは此等の事最初に起らざる可らず。されど これ直に終末に非ざればなり。

21 10 其時、（イエス）彼

イエサヤ書一九の二

「產の苦痛」とは人間の最大苦痛。

……。

13 8 そは國民は國民に逆ひ、王國は王國に逆ひて、起り、處處に地震あり、飢饉あるべければなり。此等の事は產の苦痛の初なり。

24 7 そは國民は國民に逆ひ、王國は王國に逆ひて、起り、處處に飢饉・地震等あるべければなり。8 されど凡て此等の事は產の苦痛の初なり。

等に言ひ居たり。國民は國民に逆ひ、王國は王國に逆ひて、起らん。11 且處處に大なる地震・疫癘・飢饉等あらん。又天より恐るべき凶象・大なる證徵等あらん。

13 9 されど　汝等
己を眺めよ。
彼等　汝等を
議會にへと渡さ
ん。
且　汝等　會堂
にへと（曳かれて）
鞭たれん。
又　彼等には、
證據にとて、我
が爲に、汝等
總督や帝王の前

……。
24 9A 其時、彼等
汝等を艱難
にへと渡さん。
而して　彼等
汝等を殺さん。

21 12 されど　凡て此
等の事の前に、
彼等　その手を
汝等に掛けん。
且　わが名の爲
に、會堂や監獄
にへと渡し、
又　帝王や總督
の前に、曳出し
て、彼等　汝等
を迫害せん。

に据えられん。

13 10 かくて　福
音は　第一
に、萬國民
にへと、
說教せられ
ざる可らざ
るなり。

24 14 かくて　國の：この福音は
萬國民には、
證據にと、全世界に於て、
說教せられん。
而して　其時、終末は　來
らん。

11 彼等　汝等を曳きて、
渡さん時も、
汝等　何を語らんかと
……。

マタイ

21 13 これ　汝等に
は、證
據にと
轉せん。

21 14 故に　汝等　辯護する

豫め心配する勿れ。

マ

されど即刻、汝等に
與へらるる事をば、そ
の事を、汝等語れ。
そは語る者は汝等
に非ず、
されど聖靈なればな
り。

13 12 兄弟は兄弟を、父は
兒等を死にへと渡さ
ん。
兒等は親等を相手取

タ

ことを、豫め慮るま
じと、汝等心に於て、
定めよ。

21 15 そは汝等に反對する
彼等皆抵抗し、或
は論駁し能はざる口
と智慧とを、我汝等
に與ふべければなり。

16 汝等は親・兄弟・親戚・朋
友等に依りて、渡され
ん。
彼等は汝等の中より

りて、彼等を死に處せしめん。

13 13 かくて汝等は
わが名の故に、
凡ての者に依り
て、憎まるる者た
らん。

……
……。
……
……
……
……

イ

24 9B かくて汝等
は、わが名の
故に、萬國民
に依りて、憎ま
るる者たらん。

10 其時、多數の者
は躓かん。
彼等相互に渡
さん。
彼等相互に憎

（或者を）死に處せん。

21 17 かくて汝等は
わが名の故に、
凡ての者に依り
て、憎まるる者た
らん。

18 而も汝等の頭
より、決して
髮（一縷）だも失
せじ。

……………………。
……………………
……………………。
……………………
……………………。
……………………
……………………
……………………
……………………。
13 されど終末まで、堪忍ぶ所の此者は

まん。
24 11 又多數の僞善者起らん。而して多數の者を迷はさん。
12 且不法の滿てる理由にて、多數の者の愛は冷されん。
13 されど終末まで、堪忍ぶ所の此者は救はれ

……………………
……………………。
……………………
……………………。
……………………
……………………
……………………
……………………。
21 19 汝等その忍耐に於て、汝等の魂を獲得せん。

ダニエル書一二の一一のシククーツシヨーメームは、アンチオケ大王の像か、或は軍旗か、或は番兵か、或は偶像ならん。今此處に移して、ローマ王の像か、軍旗か、番兵か、或はユピテルの偶像を指せるなり。

救はれん。
13 14 されど汝等荒廢可憎物の在る可らざる處に立てるを見る時、（讀む者をして考へしめよ。）其時、ユダヤに居る彼等をして、山にへと逃げしめよ。

ん。
15 故に汝等預言者ダニエルを通じて、言はれし「荒廢可憎物」の聖處に於て立てるを見る時、（讀む者をして考へしめよ。）
16 其時、ユダヤに居る彼等をして山にへと逃げしめよ。

20 されど汝等軍隊に依りて。圍まれ居るイエルサレムを見る時、（其時、汝等彼女の荒廢近づきたることを識れ。）
21 其時、ユダヤに居る彼等をして山にへと逃げしめよ。

……
……
……
……。
……
……
……
……
……
……。

13 15 屋上の彼をして下らしむる勿れ。尚又何をか

24 17 屋上の彼をして、その家より物を取出さんとて、下らしむる勿れ。

18 畠に居る彼をして、その上着を取らんとて、背後に振返らしむる勿れ。

……
……
……
……。
……
……
……
……
……
……。

16 畠にへと（向へる）彼をして、その上着を取らんとて、背後の物にへと振返らしむる勿れ。

……
……
……
……。
……
……
……
……
……
……。

［町］の中央に居る彼等をして、立退かしめよ。地方に居る彼等をして、［町］にへと入らしむる勿れ。

17 31 かの日、屋上に在らん彼をして家に於ける・その器物＝

その家より取出さんとて、入らしむる勿れ。

此等を取らんとて、下らしむる勿れ。

又畠に居る彼をして、齊しく背後の物にへと振返らしむる勿れ。

21 22 汝等ロトの妻を記憶せよ。

32 それ此等は

……………………

13 17 されど……。災禍なるかな 其等の日に、身ごもれる女等と乳を飲まし居る女等とは！

……………………

24 19 されど……。災禍なるかな 其等の日に、身ごもれる女等と乳を飲まし居る女等とは！

その記されたる凡ての事の成就せらるべき刑罰の日なればなり。

21 23 災禍なるかな 其等の日に、身ごもれる女等と乳を飲まし居る女等とは！

ダニエル書一二の一

18 されど汝等冬に、其の起らざるやう、祈り居れ。

19 そは其等の日は神の造りし創造の開闢より現今に至るまで、斯程のもの起らず、

20 されど汝等の逃走の冬にも、安息日にも、起らざるやう、汝等祈り居れ。

21 そは其時、世界の開闢より現今に至るまでも起らず、

そは地上には大災、この民には震怒あるべければなり。

24 かくて彼等剣の口にて、斃れん。且彼等は捕虜と成りて萬國民にへと曳かれん。

尙又（今後とても）決して起るまじき程の難なるべければ

尙又（今後とても）決して起るまじき程の大なる艱難あるべければなり。

又イルサレムは諸國民の時期滿つるまで、諸國民に依りて、蹂躙せられん。而も［その時期到らん］。

13 20 かくて　もし　ヤーエ　此等の日を切縮めざりしならば、有ゆる肉は救はれじ。

マ　されど　選みし所の選

24 22 かくて　もし　其等の日が切縮められざりしならば、有ゆる肉は救はれじ。

ル　されど選まれたる彼

［民］の故に、彼此等の日を切縮めぬ。

マ　17 20 さて［何時、神國は來るか］と、パリサイ人等に依りて、質問せられければ、（イエス）彼等に答へて、言へり。

神國は目立ちて、來らず。

ル　21 尙又彼等［見よ！此處に！］、或は［彼處に！］とも言はざるべし。

タ　そは見よ！神國は汝等の中に在ればなり。

コ　22 されど（イエス）弟子等に向ひて、言へり。

等の故に、其等の日は切縮められん。

カ

マルコ	マタイ	ルカ
		汝等人の子の一日を見んと焦るる時、[幾]日か來らん。而も汝等見ざらん。
13 21 又其時、「見よ！此處にメシヤ！見よ！其處に！」と、もし何人か汝等に言ふとも汝等信じ居ること勿れ。	24 23 其時、見よ！此處にメシヤ！」或は「彼處に！」と、もし何人か汝等に言ふとも汝等信じ居ること勿れ。	17 23 又彼等汝等に言はん。「見よ！其處に！」或は「見よ！此處に！」。されど汝等赴く勿れ。尚又汝等

マルコ	マタイ	ルカ
22 そは僞メシヤ僞預言者等起らん。而してもし能ふべくば、選まれたる彼等をも迷はさんとて彼等證徵・奇蹟等を與ふべければなり。 23 されど汝等	24 そは僞メシヤ僞預言者等起らん。而してもし能ふべくば、選まれたる彼等をも迷はす程に、彼等大なる證徵・奇蹟等を與ふべければなり。	追掛くる勿れ。

眺め居れ。
我凡ての事を
豫め汝等に言
ひたり。

……………。

24 25 見よ！ 我 豫
め 汝等に言ひ
たり。
26 故に もし 彼
等「見よ！ 彼
荒野に於て、在
り！」と 汝等に言
ふとも、
汝等 出往く勿
れ。
「見よ！ 密室に

……………。

於て！」
汝等 信ずる勿
れ。
24 27 そは 正しく
電光の 東より
出往きて、西ま
でも 輝くが如
く、
人の子の臨御も
正に斯の如くな
るべければなり。

……………。
……………。
17 24 そは「正しく
天下の［極］より
天下の［極］にへと
電光の 光るが
如く、
人の子も 彼の
日に於て、正に
斯の如くなるべ
ければなり。

…………
…………
…………
…………
…………
…………。
…………
…………
…………。
…………
…………

…………
…………
…………
…………
…………
…………
…………。
…………
…………

17 25 されど彼最初に、多數の事を苦まざるべからず。且この代より打棄てられざる可らざるなり。
37 爰に於て、彼等答へて、[イエス]に言ふ。何處に。主よ！
されど彼彼等

イエサヤ書三四の一五
ダイヤーはヒブリ語なり。

イエサヤ書一三の一〇

イエサヤ書三四の四

…………。
…………
…………
…………
…………。
13 24 されど其等の日に、その艱難の後、日は暗くせられん。而して月はその明を與へ

…………。
24 28 何處にても、屍の在る處には鷲鳥も共に、其處に集められん。
29A されど其等の日の艱難の後、直に、日は暗くせられん。而して月はその明を與へざ

に言へり。何處にても、體の(在る)處には鷲鳥も亦其處に集められん。
…………
…………
…………。
21 25 日・月・星辰に於て[諸]の證徵あらん。

ざらん。
13 25 且　星辰は
天より落ちつつ有らん。
……
……
……
……
……
……。
……
……
……
……
……
……。

らん。
且　星辰は　天
より落ちん。
24 30A かくて　其時、
人の子の證徴
天に於て、現れん。
且　其時、地の
凡ての種族は
（胸を）打たん。

地上には　海と
浪との鳴　轟に
狼狽せる諸國民
の苦悶（あらん）。
21 26 人人は　世界
に臨まんとする
事に就いて、恐
怖と豫期とにて、

又　天に於け
る能力は　搖
られん。
26 かくて　其時、
彼等　大なる
能力と榮光と
を以て、雲に
於て、來る人の
子を見ん。
27 其時、彼　又
使者等を派遣

氣絕せん。
そは　天の能力
搖らるべければ
なり。
27 かくて　其時、
彼等　大なる能
力と榮光とを以
て、雲に於て、來
る人の子を見ん。
28 されど　此等の
事の　起り始む

29B 又　天の能力は
搖られん。
30B かくて　彼等
大なる能力と榮
光とを以て、天
の雲に乘りて、來
る人の子を見ん。
31 彼　又　大なる
ラッパを持てる彼

せん。
而して地の極より、天の極まで＝四風の中より、彼の選[民]を、共に集めん。
……。

申命記三〇の四　ゼカルヤ書二の六

の使者等を派遣せん。
而して彼等天の（この）極よりかの極まで＝四風の中より、彼の選[民]を、共に集めん。
……。

る時、
汝等伸上れ。
而して汝等の頭を擡げよ。
これ汝等の贖近づけるが故なり。

21 29 （イエス）又比喩を彼等に言へり。

13 28 されど汝等無花果樹より比喩を學べ。
何時にても、その枝既に柔に成りて、葉を萠さば、汝等夏の近づきたることを識る。
29 斯の如く、汝等何時にても、亦汝等無花果樹と、凡ての樹とを見よ。
30 何時にても、其等既に萠出づれば、汝等自ら眺め居りて、夏の既に近づきたることを識る。
31 斯の如く、汝等何時にても、亦

24 32 されど汝等無花果樹より、比喩を學べ。
何時にても、その枝既に柔に成りて、葉を萠さば、汝等夏の近づきたることを識る。
33 斯の如く、汝等何時にても、亦

も亦此等の事の起るを見ば、

汝等彼の近く、戸口に在ることを識れ。

13 30 アーメーン！我汝等に言ふ。それ凡て此等の事の起るまで、この代は

決して過往くまじ。

31 天も地も過往かん。されどわが言は過往かじ。

32 されど かの日或は時刻に就ては、ただ父の外、天に於ける使者

凡て此等の事を見ば、

汝等彼の近く、戸口に在ることを識れ。

24 34 アーメーン！我汝等に言ふ。それ凡て此等の事の起るまで、この代は

決して過往くまじ。

35 天も地も過往かん。されどわが言は決して過往くまじ。

36 されど かの日と時刻とに就ては、ただ父の外、天の使者等も子

此等の事の起るを見ば、

汝等神國の近づきたることを識れ。

21 32 アーメーン！我汝等に言ふ。それ凡ての事の起るまで、この代は

決して過往くまじ。

33 天も地も過往かん。されどわが言は決して過往かじ。

……
……
……
……
……
……
……
……

創世記七の七テーバーはヒブリ語なり。

等も子すらも
一人だに知らず。

マ

24 37 そはノアの日の如く、人の子の臨御も、正に斯の如くなるべければなり。

38 そは洪水の前、其等の日に、ノアの方船に入りし日まで、彼等食ひ、飲み、娶り、

17 26 かくてノアの日に、事の起りし如く、人の子の日にも、亦正に斯の如くならん。

27 ノアの方船に入りし日まで、彼等食ひ、飲み、

すらも、一人だに知らず。

……

創世記一九の二四

ル

嫁ぎ居たればなり。

39A 而も洪水來りて、凡ての者を、共に取去りしまで彼等識らざりき。

娶り、嫁ぎ居たり。而も洪水來りて、凡ての者を亡ぼせり。

コ

マ

17 28 齊しく亦ロトの日にも、正に斯の如く、事起れり。彼等食ひ居たり、飲み居たり。

タ

彼等買ひ居たり、賣り居たり。彼等植ゑ居たり、築き居たり。

イ

29 されどロトソドムより出往きし日に、火と硫黄とは天より降れり。

而して　凡ての者を亡ぼせり。

マ　24 39B 人の子の臨御も正に斯の如くならん。

ル　17 30 人の子の現るる日にも、それ同じ事ならん。

マ　17 33 もし誰にても、己が魂を恣にせんと求むる者は、此を失はん。

タ　されど　もし　誰にても、（己が魂を）失はん者は、此を存へしめん。

イ　……。

24 40 其時、二人畠に於て、在らんに、一人は引立てられんも、一人は遺されん。

41 二人の女磨を挽き居らんに、一人は引立てられんも、一人は遺されん。

ルカ一七の三六は「其時、二人畠に於て在らんに、一人は引立てられんも、他の者は遺されん」なり。

コ　13 33 汝等眺め居れ。汝等眠らずに居れ。そは汝等時期の何時なるかを知らざれ

に在らんに、一人は引立てられんも、他の者は遺されん。

35 共に、磨を挽き居る女二人あらんに、一人は引立てられんも、他の者は遺されん。

マ　17 34 我汝等に言ふ。此夜二人一の床の上

タ　イ　ル　カ

ばなり。

13 34 そは　彼の家を遺して、旅行せる人の如し。
彼　彼の奴隷等に　權威を＝
各自に　その業を與へて、
門番にも　見張り居るやうに、命せり。

マ　タ　イ　ル　カ

35 故に　汝等　見張り居れ。
そは　何時、家の主人の　來るかを、汝等　知らざればなり。

24 42 故に　汝等　見張り居れ。
それ　如何なる日に、汝等の主人の　來るかを、汝等　知らざればなり。

21 31A されど　汝等　己を警戒せよ。

夕は六時―九時。夜半は九時―十二時。雞鳴は十二時―三時。朝は三時―六時。

イエサヤ書二四の一七

或は　夕か。或は　夜半か。或は　雞鳴か。
或は　朝か。
36 恐らくは　彼　俄に來りて、眠り居る汝等を見出さん。
37 されど　我　汝等に言ふ事を、凡ての者にも言ふ。
「汝等　見張り居れ」。

マ　タ　イ　ル　カ

21 34B 恐らくは　汝等の心　食傷・酩酊・渡世の心配にて、壓付けられん。
而して　かの日は　罠の如く、俄に　汝等の上に

臨まん。

マ　21 35そは地の全面に住める一同の上に、襲ひ來るべ
ければなり。
36されど汝等將に起らんとする凡て此等の事を
タ　遁れ、又人の子の前に立つに堪ふる力を得るやう、冀
イ　ひ、有ゆる時期に於て、汝等眠らずに居れ。

24 43されど汝等其を識る。家主もし如何なる警刻に、盜人の來るかを
12 39されど汝等此を識る。家主もし如何なる時刻に、盜人の來るかを
知りたらんには、彼見張りて、彼の家を穿たしめざりしならん。
40汝等も亦準備せる者と成れ。
これ汝等の思はざる時刻に、人の子來るが故なり。

知りたらんには、彼見張りて、彼の家を穿たしめざりしならん。
44この理由にて、汝等も亦準備せる者と成れ。
これ汝等の思はざる時刻に、人の子來るが故なり。

21 37さて（イエス）晝は宮に於て、敎へつつ在りしが、夜は出往き、「ザイス」と云はるる山に入りて、宿り居たり。
38かくて人民一同彼に聞かんとて、宮に居れる彼の

許に、朝早くより、詰掛け居たり。

一六　十人の處女（マタイ二五の一―一三）

25 1 其時、天國は己がカンテラを取り、新郎を迎へんとて、出往きし程の十人の處女に擬へられん。
2 されど彼等の中、五人は愚なる者にして、五人は賢き者なりき。
3 そは愚なる者は、彼等のカンテラを取りて、自ら油を取らざりければなり。
4 されど賢き者は己がカンテラと共に、油を器に於て、取れり。

5 されど新郎遲かりければ、一同睡氣差して、睡り居たり。
6 さて、夜半、叫聲起りたり。「見よ！新郎！迎の爲に、汝等出往け！」。
7 其時、かの處女等一同起きて、己がカンテラを整へぬ。
8 されど愚なる者賢き者に言へり。「汝等の油を我等に分與へよ。それ我等のカンテラ熄えんとすればなり」。
9 されど賢き者答へて、言へるは、

「恐らくは　我等と汝等とには、迚も足るまじ。
寧ろ　汝等　賣り居る彼等の許に進みて、自ら買へ」。
25 10 さて　彼等　買はんとて、出往けるに、新郎　來れり。
かくて　準備せる者等、彼と共に、婚筵に入りければ、
戸は　閉ぢられぬ。
11 されど　餘の處女等　來りて、言へるは、
「主よ！　主よ！　汝　我等に開け」。
12 されど　彼　答へて、言へり。
「アーメーン！　我　汝等に言ふ。我　汝等を知らず」。
13 故に　汝等　見張り居れ。
それ　汝等　日をも時刻をも知らざればなり。

一七　終末の大審判（マタイ二五の三一―四六）

ゼカルヤ書一四の五

25 31 されど　何時にても、彼の榮光に於て、人の子
及び　彼と共に、使者等一同　來る時、
其時、彼　その榮光の位の上に坐せん、
32 而して　萬國民は　彼の前に集められん。
而して　恰も　牧者が　羊を山羊より別つが如く、
彼　彼等を　別別に別たん。
33 けに　彼　羊をば　彼の右に置かんも、

山羊をば　彼　左にせん。

25 34 其時、王　彼の右に居る彼等に言はん。
「いざ　來れ！　汝等　わが父に　祝せられたる者！
汝等　世界開闢より、汝等に備へられたる國を嗣げ。

35 そは　我　飢ゑければ、食せしめんとて、汝等　我に
與へ、
我　渴きければ、汝等　我に飲ましめ、
我　旅人なりければ、汝等　我を饗應し、
36 我　裸體なりければ、汝等　我に着せ、
我　病みければ、汝等　我を見舞ひ、
我　監獄に在りければ、汝等　我が許に來りければな
り」。

37 其時、義人等　彼に答へん。曰く、
「主よ！　何時、飢ゑたる汝を見て、我等　養ひ、
或は　渴き居たる(汝)に、我等　飲ましや。
38 且　何時、旅人なりし汝を見て、我等　饗應し、
或は　裸體なりし(汝)に　我等　着せしや。
39 又　何時、病み居たる、或は　監獄に居たる、
(汝)を見て、我等　汝の許に到りしや」。
40 王　答へて、彼等に言はん。

「アーメン！ 我 汝等に言ふ。
汝等 我が・いと小き此等・兄弟の一人に
爲し程の事は、汝等 我に爲ししなり」。

25
41 其時、彼 又 左に居る彼等に言はん。
「汝等 呪はれたる者！ 我を離れて、惡魔と
彼の使者等とに備へられたる永遠の火にへと進め。
42 そは 我 飢ゑしかど、食せしめんとて、汝等 我に
與へず、
我 渴きしかど、汝等 我に飲ましめず。
43 我 旅人なりしかど、汝等 我を饗應さず、
我 裸體なりしかど、汝等 我に着せず、
我 病み（居りしかど）、汝等 我を見舞はず、
我 監獄に在りしかど、汝等 我（が許に來らざりけれ
ばなり）」。

44 其時、彼等も 亦 答へん。曰く、
「主よ！ 何時、飢ゑ居たる、或は 渴き居たる、
或は 旅人なりし、或は 裸體なりし、
或は 病み居たる、或は 監獄に居たる汝を見て、
尙 我等 汝に事へざりしや」。
45 其時、彼 彼等に答へん。曰く、

ダニエル書一二の二

「アーメーン！我汝等に言ふ。汝等いと小き此等の一人に爲さざりし程の事は汝等我に爲さざりしなり。

25 而して此等の者は永遠の懲戒に、されど義人等は永遠の生命にへと赴かん」。

一八　ユダと祭司長

（マルコ一四の一―二・一〇―一一）（マタイ二六の一―一五・一四―一六）（ルカ二二の一―六）（ヨハネ一三の一）

14 1 さて過越祭の前、

26 1 さる程に、イエス凡て此等の言を終へし時、彼の弟子等に言へり。

22 1 さて無酵麪祭近づき居たり。

13 1 さて過越祭の前、イエス此世を出でて父の許に移るべき・彼の時刻の來れるを知り、世に於ける・己が[弟子等]を愛して、終に至るまで、彼等を愛せり。

[過越祭]と云はるる無酵麪祭は二日の後なりき。

2 汝等知る。十そ[れ]二日の後、過越祭行はるる。而して磔殺にせらるる爲に、人の子渡さるべき。

26 3 其時、祭司長・民の長老等「カヤパ」と云はる祭司長の中庭に集め

22 2 かくて祭司長・文學士等如何にして、詭りて、[イエ

ス]を押へて、殺さんと求め居たり。
14 2そは彼等[祭に於てすまじ。恐らくは民の騒動あらん]と言ひ居たればなり。
14 10かくて十二人の一人にて、イシカリオなるユダ[イエス]を祭司

26 4かつ彼等詭りて、イエスを押へて殺さんと協議せり。5されど彼等[祭に於てすまじ。恐らくは民騒動起らん]と言ひ居たり。

にして、[イエス]を除かんかと求め居たり。そは彼等民を恐れ居たればなり。

26 14其時、[イシカリオなるユダ]と云はる・十二人の一人祭司長等の許に進みて、15言へり。

22 3さてサタン十二人の數の中なる者にて、[イシカリオ]と呼ばるるユダにへと入りしかば、4彼如

長等に渡さんとて、彼等の許に赴けり。
11さて彼等聞きて、喜び、彼に銀を與へんと、約束しければ、彼如何にして、[イエス]を渡さんかと、好機を求め居たり。

汝等何を我に與へんと欲するか。我汝等に彼を渡さんには。
さて彼等銀三十を、彼に約しければ、16彼其時より[イエス]を渡さんと、好機を求め居たり。

何にして、[イエス]を彼等に渡さんかと、出往きて、祭司長・護衛長等と相談せり。
5かくて彼等喜びて、彼に銀を與へんと約しければ、
6（ユダ）容易く諾し、而して群衆の居らざる時、[イエス]を彼等に渡さんと、好機を求め居たり。

一九　希臘人の面謁（ヨハネ一二の二〇—五〇）

20 さてこの祭に於て、禮拜せんとて、上れる者の中に
或る希臘人ありき。21 故に此等の者ガリラのベスザイ
スよりのピリポに近寄り。彼に問ひ始めて、言へるは、
君よ！我等イエスを見んと欲す。
22 ピリポ來りて、アンヅレに言ふ。アンヅレとピリポ
と來りて、又イエスに言ふ。23 イエス答へて、彼等に言
へるは、人の子の榮光を受くべき時刻來りたり。
24 アーメーン！我汝等に言ふ。

地にへと落ちし麥の粒も、もし
死なずば、ただその儘にて遺る、
されど死なば、多數の果を結ぶ。
25 己が魂を慕ひ居る彼は、此を失ふ。
この世にて、己が魂を憎み居る彼は、
永遠の生命にへと、此を保たん。
26 もし誰にても、我に事へなば、
彼をして、我に隨行せしめよ。
又何處にても、我が居る處には、
わが給仕も亦其處に居らん。
もし誰にても、我に事へなば、

父彼を貴まん。

詩篇六の三、四二の六

12 27 今やわが魂騷ぎたり。我何をか言はん。父よ！汝この時刻より我を救ひ出せ。されど この理由にて、我この時刻にへと來れり。父よ！ 汝榮光を 汝の名に歸せよ。

28 故に聲天より出で來れり。我既に榮光あらしめぬ。我再度、榮光あらしめん。

29 故に傍に立ちて、聞きし群衆 言ひ居たり。雷鳴りたり。他の者等 言ひ居たり。使者彼に語りたり。

30 イエス 答へて、言へり。この聲我が爲に、起りたるに非ず。反て汝等の爲なり。

31 今は それ この世の審判なり。今や この世の長は、外部に投出されん。

32 我もし 地の中より上げられなば、我凡ての者を、己が許に引寄せん。

12 33 されど（イエス）如何なる死にて、將に死なんとするかを諷して、この事を言ひ居たり。31 故に群衆彼に答へぬ。

我等律法の中より「メシヤは永遠に存す」と聞けり。然るに如何なれば、汝人の子は上げられざる可らず」と言ふや。この人の子とは誰なるか。

35 故に イエス 彼等に言へり。

尙暫時、光明は汝等に於て在り。

闇黑の汝等に追付かざるやう、汝等光明を有する間に、歩め。

暗黑に於て、歩み居る彼は、何處に退くやを知らず。

36 汝等光明の子と成るやう、汝等光明を有する間に、光明に信じ入れ。

イエス 此等の事を語り、去りて、彼等より隱れぬ。

37 さて［イエス］彼等の面前にて、此等の如き斯る證徵を爲したれども、彼等彼に信じ入らざりき。38 これ預言者イザヤの言の全うせられんが爲なり。曰く、

主よ！誰か我等の聞きし事を信せしぞ。

而してヤーヱの腕は誰に現されしぞ。

12 39この理由にて、彼等信じ居ること能はざりき。それ
イエサヤ再度、言ひければなり。
40彼等目にて見ず。彼等心にて悟らず。
彼等振返り、而して我彼等を癒さざるやう、
彼彼等の目を矇ましたり。
彼彼等の心を頑固にせり。
41イエサヤ此等の事を言へり。これ彼の榮光を見、彼
に就いて語りし故なり。42さり乍ら多數の長すら［イエス］
に信じ入れり。されど パリサイ人等の故に、會堂より
の破門者とせられまじとて、彼等公言し居らざりき。
43そは彼等神の榮光よりも、寧ろ人間の榮光を
多く愛しければなり。

44されど イエス叫びて、言へり。
我に信じ入れる彼は、我のみに非ず、
されど我を遣しし彼にも信じ入れるなり。
45又我を眺め居る彼は、
我を遣しし彼をも眺め居るなり。
46凡そ我に信じ入れる者の暗黑に於て留らざるやう
我！我は光明として、世にへと來りたり。
47たとひ誰か わが言を聞きて、守らざるも、
我彼を判かず。
そは我世を判かんとに非ず。
されど世を救はんとて、來りければなり。

12
48 我を拒み、わが言を受けんとし居らざる彼には、彼を判き居る者あり。我が語りし所の其言は、最後の日に、彼を判かん。

49 これ我は己の中より語りしに非ず。反て我を遣しし父自ら我が何を言ひ、何を語るべきかとの命令を、我に與へたるが故なり。

50 而も彼の命令は、永遠の生命なることを我知る。故に我が語る所の事は、父の我に言ひたるが如く、正に斯く我語り居るなり。

木曜日

マッサー、ペサクはヒブリ語、デイプノはヘレン語なり。

二〇　最後の晩餐の準備

（マルコ一四の一二—一六）（マタイ二六の一七—一九）（ルカ二二の七—一三）

14
12A かくて無酵麪祭の初日即ち（人人）過越祭（の小羊）を屠り居たる時、

26
17A さて無酵麪祭の初日（初日）、

22
7 さて過越祭（の小羊）を屠らざる可らざる無酵麪祭の（初日）來りければ、

マルコ　ペッロ・ヨハネを派遣して、言ひけるは、

マタイ　我等食し得るやう、汝等進みて、

ルカ　22 8（イエス）我等に過越祭（の晩餐）を準備せよ。

最後の晩餐の準備（マルコ、マタイ、ルカ）　八六九

14 12B [イエス]の弟子等彼に言ふ。汝過越祭(の晩餐)を食し得るやう、汝我等をして何處に赴きて、準備せしめんと欲するか。

26 17B 弟子等イエスに近寄りて、言へるは、汝過越祭(の晩餐)を食し得るやう、汝我等をして何處にて、汝に準備せしめんと欲するか。

22 9 されど彼等彼に言へり。……。汝我等をして、何處にて準備せしめんと欲するか。

13 かくて(イエス)彼の弟子等の二人を派遣して、彼等に言ふ。汝等町にへと退け。さらば水の瓶を擔ぎ居る人汝等に會はん。汝等彼に隨行せよ。14 而して何處にても、彼

18 されど[イエス]言へり。汝等町にへと‖某の許に退け。

10 されど[イエス]彼等に言へり。見よ！汝等町に入れるや、水の瓶を擔ぎ居る人汝等に會はん。汝等彼の進み入る所の家にへと、彼に隨行

入らば、
汝等 〔其處〕の家
主に言へ。
『先生 言ふ。
「……
……。
我 わが弟子等
と共に、過越祭
（の晩餐）を食し得
14 15 べき・わが座敷は
何處なるか』。
さらば 彼・自
而して 彼に
言へ。
『先生 言ふ。
「わが時期 近
づけり。
我 わが弟子
等と共に、汝
の許にて、過
越祭（の晩餐）を
爲さん』。
……

せよ。
22 11 而して 汝等
家の家主に言へ。
『先生 汝に言ふ。
「……
……。
我 わが弟子等
と共に、過越祭
（の晩餐）を食し得
べき所の座敷は
何處なるか』。
12 かの者 大なる

ら 敷並べたる
準備せる大なる
二階座敷を、汝
等に示さん。
汝等 其處にて
我等に準備せよ。
……
……。
……
……。
……
……

越祭（の晩餐）を準備せり。

（マルコ一四の一七―二五）

祭（の晩餐）を準備せり、

（マタイ二六の二〇―二九）

二一　最後の晩餐

（ルカ二二の一四―一七上・二一・二三・一七下・二〇下・一八）

祭（の晩餐）を準備せり。

（ヨハネ一三の二―一九・二一―三〇）

（コリント前書一一の二三―二五）

金曜日マルコにはニサンの十四日なるが如くに見ゆれども、ヨハネには其前日の如くに見ゆ。傳說にはマルコの母マリヤの家にて、密に晚餐を食したるものとせり。

14 17 かくて夕と成りて、（イエス）十二人と共に、來る。

1A 而して彼等と共に、席に着けり。

26 20 さて夕と成りて、（イエス）十二人の弟子等と共に、席に着いて、食し居る時、

22 14 かくて時刻と成りし時、（イエス）席に着けり。

13 2A かくて晚餐の最中に、

21A 而して彼と共に（在りき）。使徒等も亦彼等に向ひて、言へり。

15 22 而して（イエス）彼等に向ひて、言へり。

16 そは我汝等に言へばなり。

我わが苦難の前に、汝等と共に、この過越祭（の晚餐）を食せんと、切に思ひ焦れぬ。

其が神國に於て全うせらるる時まで、

マタイ　我決して其を食すまじ、

マルコ　13 2B 惡魔既に［イエス］を渡さんとの事を
シメオンの（子の）イシュカリオなるユダの
心にへと投じたれども、8（イエス）凡ての
物を、父彼の手にへと與へし事と、
且彼が神の處より出で來り、又
神の許に退く事とを知りて、4晩餐（の席）
より起ち、上着を脱ぎ、手拭を取りて、
自ら締め、次に、水を盥にへと投じ、
而して弟子等の足を洗ひ、かつ己
が締め居りし手拭にて、拭ひ始めぬ。

ルカ

ヨハネ

コリント前書

6故に彼シメオンペツロの許に
到る。（ペツロ）彼に言ふ。
主よ！
汝！汝わが足を洗ふか。
7イエス答へて、彼に言へり。
唯今、汝我が、爲し居る事を知らず。
されど此等の事の後、汝識らん。
8ペツロ彼に言ふ。
汝決して、永遠に、わが足を洗ふ
こと勿れ。
イエス彼に答へぬ。
もし我汝を洗はずば、

マ　汝　我に　縁　無し。

マ　13 9シメオン　ペツロ　彼に言ふ。

ト　主よ！

ル　雪に　わが足のみならず、

尚又　わが手をも、わが頭をも、

ル・タ　10イエス　彼に言ふ。

浴したる彼は、足の外、洗はるる必

要　無し。

されど　彼は　全部　潔き者なり。

汝等も　亦　潔き者なり。

されど　汝等・一同に非ず。

コ　11そは　彼　己を渡し居る者を知りた

コ　ン　リ　ト　前　書

ればなり。この理由にて、彼　言へり。

汝等・一同　潔き者に非ず。

ル　12故に　(イエス)　彼等の足を洗ひ、彼の

上着を取り、而して　席に着きし時、

再度、彼等に言へり。

何を　我　汝等に爲したるかを、汝

等　識り居るか。

イ　13汝等　我を「先生」又は「主」と呼ぶ。

良いかな　汝等の言へる！

カ　そは　我　其なればなり。

コ　14故に　主　かつ　先生なる我

もし　汝等の足を洗はば、

マタルコ

汝等も亦相互に足を洗はざる可らざるなり。

13 15 そは我が汝等に爲したる如く、汝等も亦正に斯く爲すやう、我汝等に模範を與へければなり。

16 アーメーン！アーメーン！我汝等に言ふ。奴隷は彼の主人よりも大なる者に非ず。尚又使徒は彼を遣しし者よりも大ならざるなり。

コイカ

17 もし汝等此等の事を知らば、もし汝等同じ此等の事を爲さば、汝等は幸福なる者なり。

18 我汝等一同に就いて、言ふに非ず、我誰を選みしかを知る。されど これ書の全うせられんが爲なり。「わがパンを嚙み居る彼、我に逆ひて、彼の踵を擧げぬ」。

19 事の起らざる前、唯今より、我汝等に言ふ。これ事の起りたらん時、我の

ト前書

マルコ　14 18B イエス言へり。アーメーン！我汝等に言ふ。

マタイ　26 21B（イエス）言へり。アーメーン！我汝等に言ふ。

ルカ　22 17A 而して（イエス）言へり。

彼なることを、汝等に信ぜしめんとてなり。

13 21 イエス此等の事を言ひて後、靈に於て、騷ぎ、かつ證明して、言へり。

22 21 併し見よ！我汝等に言ふ。

コリント

ふ。汝等の中の一人にて、我と共に食し居る彼、我を渡さん。

汝等の中の一人、我を渡さん。

我を渡し居る彼の手、我と共に、卓上に在り。

汝等の中の一人、我を渡さん。

14 19 彼等憂へて、一人

26 22 かくて彼等甚く憂へ

22 23 かくて彼等に將この事を行はんとする

13 22 弟子等（イエスの）誰に就いて言へるかを訝りて、相互に眺め居たり。23 彼の弟子等の中の一人にて、イエスの愛し居たる者、イエスの懷の

ト　前　書

一人各自彼は誰なるべきやと、自ら相互に詮議し始めぬ。

[イエス]一人づつ[イエス]に言ひ始めぬ。

それ我ならんや。

それ我ならんや。

邊に靠れ居たり。

13 24 故にシメオン・ペッロ此者に點頭き、而して彼に言ふ、汝言へ。（イエスの）就いて、言ふ所の者は誰なるか。

13 25 かの者其儘に、イエスの胸の邊に寄掛りて、彼に言ふ。主よ！誰なるか。

コリント前書

14 20 されど[イエス]彼等に言へり。十二人の一人にて、我と共に、丼に浸し居る彼なり。

21 それまことや人の子は彼に主よ！

26 23 されど[イエス]答へて、言へり。我と共に、手を丼に浸しし此者は我を渡さん。

24 まことや人の子は彼に就いて

13 26A 故にイエス答ふ。我一片を浸して、與へん所の彼は其者なり。

22 22 それまことや人の子は定められたる

ルカ　ヨハネ

就いて、正に記されたる如くに退く。されど災禍なるかな人の子を渡し居る所の其人！もし生れざりしならば、彼

正に記されたる如くに退く。されど災禍なるかな人の子を渡し居る所の其人！もし生れざりしならば、彼

事に應じて、進む。しかし災禍なるかな（人の子を）渡し居るところの其人！

……

……

……

言ふ。
汝爲し居る所の事を速に爲せ。

マルコ　13 23 されど席に着き居れる者の一人だも、何に向ひて、（イエス）此事を、［ユダ］に言へるかを識らざりき。29 そはユダ

マタイ　財布を持居たるものから、イエス彼に「汝祭の爲に、我等の要する物、或は何か貧き者等に、彼の與ふべき物を買へ」と言ひ居たること、或る者等は思ひ居たればなり。30 故に其

ルカ　一片を取りて、直に出往きしが、さて夜なりき。

コリント前書　14 22 かくて彼等食し居る時、（イエス）パンを取り、祝して、缺き、彼等に與へて、言へり。汝等取れ。此は

マタイ　26 26 さて彼等食し居る時、（イエス）パンを取り、祝して、缺き、弟子等に與へて、言へり。汝等取れ。此は汝等食へ。

ルカ　22 19 かくて（イエス）パンを取り、感謝して、缺き、彼等に與へて、言へるは、此は汝等の爲に與へられ居たるその夜に於て、主イエスパンを取り、24 感謝して、缺き、而して言へり。此は汝等の爲な

わが體なり。……

此は わが體なり。……

らるる・わが體なり。

わが記念にへと、汝等此を爲し居れ。

る・わが體なり。

わが記念にへと、汝等此を爲し居れ。

14 23（イエス）又カップを取り、感謝して、彼等に與へければ、一同其中より飲めり。

26 27（イエス）又カップを取り、感謝し、彼等に與へて、言へるは、

22 20A 晚餐の後、同樣に、亦カップを（取り）、言へるは、

11 25 晚餐の後、同樣に、亦カップを（取り）、言へるは、

24（イエス）又彼等に言へり。……

26 28 汝等・一同此中より飲め。……

22 17B 汝等このカップを取れ。而して汝等自ら分て。……

20B このカップは汝等の爲に、注がるる

このカップは わが血に於ける新約なり。汝等飲む度

此は 多數の者の爲に、注

そは 此罪の赦免にとて、多數の者の爲に

がるる契約の注がるる契約の・わが血なればなり。

わが血に於ける契約！

出埃及記二四の八　ゼカルヤ書九の一一

14 25 アーメーン！我汝等に言ふ。我神國に於て新しき其を飲む時の其日まで、

26 29 されど我汝等に言ふ。我わが父の國に於て、汝等と共に、新しき其を飲む時の其日まで、

22 18 そは我汝等に言へばなり。我今より、神國の來るまで、

毎に、わが記念にへと、汝等此を爲し居れ。

最早決して葡萄蔓の果より飲むまじ。

（マルコ　一四の二七—三一）

唯今より決して葡萄蔓の此果より飲むまじ。

（マタイ　二六の三一—三五）

葡萄蔓の果より飲むまじ。

（ルカ　二二の三一—三八）

（ヨハネ　一三の三一—三八）

二二　弟子等の離散を豫告す

マルコ

マタイ

ルカ

13 31 故に（ユダ）出往きし時、イエス言ふ。今や人の子は榮光を得ぬ。神も亦彼に於て、榮光を得ぬ。

弟子等の離散を豫告す（マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ）

マルコ　13 32 神已に於て、彼に榮光を得しめん。

マタイ　而も直に彼に榮光を得しめん。

ルカ　33 小兒等よ！

ヨハネ　我尚暫時、汝等と共に在り。

ヨハネ　我を求めん。而も我ユダヤ人

ヨハネ　汝等我等に、「何處にても、我が退く處に、汝等來ること能はず」と、

ルタ　言ひし如く、かく唯今、我又汝等に言ふ。

ヨハネ　34 我汝等に「汝等相互に愛せよ」との新しき命令を與ふ。

ヨハネ　我汝等を愛せし如く、汝等も亦か

ヨハネ　く相互に愛せよ。

ヨハネ　35 汝等相互に於て、愛あらば、此にて、

ルカ　凡ての者、汝等の我に弟子たることを

コイン　識らん。

ルカ　26 31 其時、イエス彼等に言ふ。此夜、汝等一同我に於て、躓かん。

ルカ　そは記されたれば

ルカ　14 27 かくてイエス彼等に言ふ。汝等一同躓かん。

ルカ　これ記されたるが

故なり。

「我牧者を打たん。
而して羊散されん」。

14 28 されど我復活せし後、汝等に先立ちて、ガリラにへと往かん。

マタイ

マルコ

ルカ

ヨハネ

なり。

「我牧者を打たん。
而して群の羊散されん」。

26 32 されど我復活せし後、汝等に先立ちて、ガリラにへと往かん。

13 36 シメオン ペツロ 主よ！ 汝何處に退くか。

イエス 答へぬ。

何處にても、我が退く處には、今隨行すること能はず。

されど後程、汝隨行せん。

22 31 シメオン！ シメオン！ 見よ！ 小麥の如くに篩はんとて、サタン汝を要求せり。

32 されど汝の信仰の蝕せざるやう、我！ 我汝の爲に、懇願せり。

かくて汝一度、立歸らん時、

汝の兄弟等を確立せよ。

14 29 さてペツロ彼に言へり。たとひ凡ての者躓かんも、我のみは

26 33 さてペツロ答へて、彼に言へり。たとひ凡ての者汝に於て躓かんも、我は決

22 33 さてシメオン彼に言へり。主よ！監獄にまでも、死にまでも、我は汝と

13 37 ペツロ彼に言ふ。主よ！何の理由にて我今汝に隨行し能はざるか。我は汝の

躓（つまづ）かし共に進まんじ。覺悟の者なり。

30 イエス又彼に言ふ。アーメーン我汝に言ふ。今日、今夜、雞二度、鳴く前に

34 イエス彼に言へり。アーメーン！我汝に言ふ。

34 さて［イエス］言へり。我汝に言ふ。ペツロ！今日、汝無情にも

38 イエス答ふ。汝の魂を汝我が爲に擲ちんとするや。アーメーン

爲に、わが魂をも擲ちん。

鳴く前に、

マ

汝！　汝　無情にも、三度、我を否まん。

14 31 されど［ペツロ］益烈しく言ひ居たり。たとひ我汝と共に死なざる可らざるとも、決して決して、無情に三度、知らずと、我を否むまで、雞鳴かじ。

ル

26 35 ペツロ彼に言ふ。たとひ我汝と共に死なざる可らざるとも、決して決して、無情に我汝に言ふ。汝三度、我を否むまで、雞決して鳴かじ。

も、我汝を否まじ。凡ての者も亦正に斯の如く、言ひ居たり。

カ

22 35 かくて（イエス）彼等に言へり。財布も・袋も・履物も無くして、我汝等を派遣せし時、汝等何物にか不足せしや。彼等言へり。何一をも！

36 （イエス）彼等に言へり。されど今、財布を有てる彼をして、携へしめよ。亦同様に、袋をも。

ヨ

も、我汝を否まじ。凡ての弟子等も亦同様に言へり。

かつ有たざる彼をして、その上着を賣らしめよ。
而して彼をして、劍を買はしめよ。
22 37 そは我汝等に言へばなり。
それ記されたる此事は、我に於て成就せられざる可らず。
「彼犯人等と共に數へられぬ！」。
そは我に就ける事は成就すればなり。
38 されど彼等言へり。
主よ！見よ！此處に劍二！
（イエス）彼等に言へり。十分なり。

二三　耶蘇の告別（ヨハネ一五、一六、一四）

15 1 我は眞の葡萄蔓なり。而もわが父は農夫なり。
2 凡そ我に於て、果を結ばざる枝をば、彼此を除く。凡そ果を結ぶものをば、尙多く果を結ばしめんとて、彼此を潔む。
3 我が汝等に語りたる言を通じて、汝等は既に潔き者なり。
4 汝等我に於て、留まれ。我も亦汝等に於て（留ま

らん）。
枝　葡萄蔓に於て、留まらざれば、自ら　果を結び能は
ざるが如く、
汝等も　亦　正に斯く、我に於て、留まらざれば、（果を
結び能は）じ。
15 5 我は　葡萄蔓なり。
汝等は　枝なり。
彼　我に於て、かつ　我　彼に於て、留まらば、此者
多量の果を結ぶ。
これ　我を離れて、汝等　何事をも爲し能はざるが故
なり。
6 もし　何人にても、我に於て、留まらざれば、
彼　枝の如く、外部に投げられて、枯れぬ。
（人人）　此等を集めて、火に投入る。
而して（此等）燒かる。
7 もし　汝等　我に於て、留まり、わが言　汝等に於て、留
まらば、
何にても、汝等の欲する所の物を、汝等〉請求せよ。
それ　汝等に成らん。
8 汝等　多量の果を結び、かつ　わが弟子と成らんこと

此事に於て、わが父榮光を得ぬ。

15 9 父の我を愛せし如く、我も亦正に斯く、汝等を愛せり。
汝等わが愛に於て、留まれ。

10 我父の命令を守り、かつ彼の愛に於て、留まれる如く、
汝等も亦正に斯く、わが命令を守らば、汝等わが愛に於て、留まれ。

11 我此等の事を、汝等に語りたり。

これわが喜悦汝等に於て、かつ汝等の喜悦の全うせられんが爲なり。

12 我汝等を愛せし如く、汝等正に斯く、而相互に愛すること、これわが命令なり。

13 何人か彼の友等の爲に、己の魂を擲つこと、此よりも大なる愛を有てる者一人だに無し。

14 我が、汝等に命ずる所の事を爲さば、汝等は、わが友なり。

15 最早我汝等を「奴隷」と言はず。
これ奴隷は彼の主人の何を爲すかを知らざれば

なり。

されど　我　汝等を　「友」と言ひたり。
これ　我　わが父より聞きし所の凡ての事を、　汝等に
識らしめければなり。

15 16 汝等　我を選みしに非ず。　反て　我　汝等を選み、か
つ　汝等を立てぬ。
これ　汝等をして、退きて、果を結び、而も　汝等の
果をして、留まらしめんとてなり。
これ　何にても、汝等　わが名に於て、　父に請求する
所の物をば、汝等に與へしめんとてなり。

17 汝等　相互に愛するやう、我　此等の事を　汝等に命
ず。
18 世　もし　汝等を憎まば、汝等よりも以前に、　我を憎
みたることを、汝等　識る。
19 汝等　もし　世よりの者なりしならば、　世は　己の有
を愛し居るならん。
されど　汝等は　世よりの者に非ず。
反て　我　世より　汝等を選み出ししを以て、
この理由にて、世は　汝等を憎む。

20 我　汝等に言ひし所の言を、　汝等　記憶せよ。

奴隷は彼の主人よりも大なる者に非ず。
彼等もし我を迫害せば、彼等亦汝等をも迫害せん。
彼等もし わが言を守りしならば、彼等亦汝等のをも守らん。
15 21 されど わが名の故に、凡て此等の事を、彼等汝等に向ひて爲さん。
これ我を遣しし彼を、彼等知らざるが故なり。
22 もし我來りて、彼等に語らざりしならば、彼等に罪有らざりしならん。
されど今は彼等の罪に就いて、彼等に口實有らず。
23 我を憎み居る彼は、亦わが父をも憎む。
24 一人だも他人の爲さざりし所の業を、
我もし彼等に於て、爲さざりしならば、彼等に罪有らず。
されど今は、彼等見たるに、尙も我とわが父とを憎みたり。
25 反て これ彼等の律法に於て「汝等恣に我を憎めり」と、

記されたる言の　全うせられんが爲なり。

15 26 何時にても、父の處より、我　汝等に遣さん所の辯護者（パラクレート）はヘレン語なり。
父の處より進み出づる所の眞理の靈　來らん時、
彼！彼　我に就いて、證明せん。
27 かつ　汝等も　亦　證明す。これ　最初より、汝等
我と共に在ればなり。

16 1 我　此等の事を　汝等に語りたり。
これ　汝等が　躓かされざらんとてなり。
2 彼等　汝等を　會堂よりの破門者と爲さん。
されど　凡そ　汝等を殺しし彼は、神に致す奉仕なり
と考ふる時刻　來る。
3 かくて　彼等　此等の事を爲さん。
これ　彼等　父をも我をも識らざりしが故なり。
4 されど　此等の事を、我　汝等に語りたり。
これ　何時にても、其等の時刻　來らん時、
其等に就いて、我が　汝等に言ひしことを、
汝等をして、思ひ起さしめんとてなり。
さて　此等の事を、最初より、我　汝等に言はざりき。

これ我汝等と共に在りたるが故なり。
16 5 されど今我我を遣しし彼の許に退く。
而も汝等の中一人だも「汝何處へ退くや」と我
に問はず。
6 反て此等の事を、我汝等に語りたるを以て、
憂苦汝等の心を滿したるが故なり。
7 されど我眞理を、汝等に言ふ。
我が去ることは汝等を益す。
そは我もし去らずば、辯護者決して汝等の
許に來らざるべければなり。

されどもし我進まば、我彼を汝等の許に遣
さん。
8 かくて彼來りて、罪に就き・義に就き・審判に就
き、世をして、自認せしめん。
9 まことや罪に就てとは、これ我に信じ入らざるが
故なり。
10 さて義に就てとは、これ我父の許に退き、汝等
最早我を見ざるが故なり。
11 さて審判に就てとは、これ此世の長判かれたる
が故なり。

16 12 尙 我 汝等に言ふべき事 多し。
されど 汝等 唯今 堪へ能はず。
13 されど かの者＝眞理の靈 來らん時、
彼 汝等を 有ゆる眞理にへと案内せん。
そは 彼 決して 自ら語らざればなり。
されど 何にても、聞きたる程の事を、彼 語り、
且 來らんとする事を、汝等に告ぐべければなり。
14 かの者 我に 榮光あらしめん。
これ 彼 必ず 我のより受けて、汝等に告げんとす
るが故なり。

15 父の 有てる程の物は 一切 我が有なり。
この理由にて、「彼 我のより受けて、汝等に告げん」と
我 言へり。
16 暫時にして、最早 汝等 我を見ず。
又 暫時にして、再度、汝等 我を見ん。
17 故に 彼の弟子等の中の（或者） 相互に言へり。
彼の 我等に言ふ所の此は 何なるか。
「暫時にして、而して 汝等 我を見ず。
又 暫時にして、再度、汝等 我を見ん」。
且 「これ 父の許に、我 退くが故なり」。

16 18 故に　彼等　言ひ居たり。
彼　「暫時」と言ふ所の此は　何なるか。
我等　彼の　何を言ひ居るかを知らず。
19 イエス　彼等が　彼に問はんと欲することを識りて、彼
等に言へり。
汝等　我が　「暫時にして、而して　汝等　我を見ず。
又　暫時にして、再度、汝等　我を見ん」と
言ひし此事に就いて、相互に求め居るか。
20 アーメーン！　アーメーン！　我　汝等に言ふ。
それ　汝等は　泣き、かつ　歎かん。
されど　世は　喜ばん。

汝等は　憂へん。
されど　汝等の憂苦は　喜悅に變ぜん。
21 何時にても、兒を產まんとする時、女に　憂苦あり。
これ　彼女の時刻　來れるが故なり。
されど　何時にても、嬰兒を產める時、
世にへと、人の　生れし喜悅の故に、
彼女　最早、その艱難を記憶せず。
22 故に　まことや　汝等にも　亦　今や　憂苦あり。
されど　再度、我　汝等を見ん。
而して　汝等の心　喜ばん。

而も 汝等より、一人だも、汝等の喜悦を奪はじ。
16 23 かの日、汝等 何事をも 我に問はざらん。
アーメーン！ アーメーン！ 我 汝等に言ふ。
もし 何にても、汝等 父に請求せば、
彼 わが名に於て、汝等に與へん。
24 唯今に至るまで、汝等 何をも、わが名に於て、請求せざりき。
汝等 請求せよ。さらば 汝等 受けん。
これ 汝等の喜悦の 全うせられんが爲なり。

25 此等の事を、我 寓話にて、汝等に語りたり。
されど 最早、我 寓話にて、汝等に語るまじき時＝
父に就いて、我 明白に 汝等に告ぐべき時刻 來る。
26 かの日、汝等 わが名に於て、請求せん。
我 汝等の爲に、父に請はんと、汝等に言はず。
27 そは 父 自ら 汝等を慕へばなり。
これ 汝等 我を慕ひ、かつ 父の處より、
我が 出で來りしことを信じたればなり。
28 我 父の中より出でて、世にへと來れり。
我 再度、世を遺して、父の許に進む。

16:29 彼の弟子等言ふ。
見よ！今汝明白に語りて、毫も寓話を言はず。
30 今ぞ我等知る。汝が凡ての事を知ることと、
又誰も汝に問ふべき必要無きことを。
此に於て、我等信ず。
汝神の處より出で來りしことを。
31 イエス彼等に答へぬ。
汝等唯今、信ずるか。
32 見よ！時刻來る！
而も既に來りたり！
それ汝等各自己が處にへと散されん。
而して汝等ただ我一人を遺さん。
而も我ただ一人に非ず。
これ父我と共に在るが故なり。
33 此等の事を、我汝等に語りたり。
これ我に於て、汝等に、平和あらしめんとてなり。
世に於ては、汝等に艱難あり。
反て汝等勇み居れ。
我！我世に勝ちたり。

14 1汝等の心をして、騒がしむること勿れ。
汝等　神に信じ入れ。汝等　我に信じ入れ。
2わが父の家に於て、多數の住處あり。
さてもし然らずば、我汝等に言ひしならん。
これ　塲處を、汝等に備へんとて、
我　進み居るが故なり。
3かくて　我　進みて、塲處を、汝等に備へなば、
再度、來りて、我　我が許に、汝等を受入れん。

これ　何處にても、我が　居る處に、汝等をも　亦
居らしめんとてなり。
4かつ　何處にても、我が　退く處。　汝等　その道を
知る。
5テオム　彼に言ふ。
主よ！
汝の　何處に退くやを　我等　知らず。
如何にして、我等　その道を知らんや。
6イエス　彼に言ふ。
我は　道なり、眞理なり、生命なり。

一人だも我を通せずして、父の許に來らず。
14 7もし汝等我を識りたらんには、わが父をも知りしならん。
唯今より、汝等彼を識る。而も汝等（彼）を見たり。
8ピリポ彼に言ふ。
主よ！汝我等に父を示せ。
さらば我等滿足なり。
9イエス彼に言ふ。
斯も久く、我汝等と共に在るに、

汝尙我を識らざりしか。ピリポ！
我を視し彼は父を視たり。
如何なれば、汝「我等に父を示せ」と言ふや。
10我は父に於て、父は我に於て在ることを、汝信
ぜざるか。
我汝等に言ふ所の事は自ら語るに非ず。
されど我に於て留まれる父彼の業を爲し居るなり。
11汝等「我父に於て、又父我に於て」と（言ふ）我を信
ぜよ。

さて　もし　然らざるも、業・その物の故に、汝等　信
せよ。

12 アーメーン！　アーメーン！　我　汝等に言ふ。
我に信じ入れる彼！　その彼も　亦　我が　爲し居る
所の業を爲さん。
14 而も　此等よりも大なる事を、彼　爲さん。
これ　父の許に、我　進むが故なり。
13 かつ　汝等　もし　わが名に於て、請求せば、
我　必ず　其事をも爲さんとするが故なり。
これ　父　子に於て、榮光を得んが爲なり。

14 もし　汝等　何をか　わが名に於て、我に請求せば、
我　必ず　其事を爲さん。
15 もし　汝等　我を愛し居らば、汝等　わが命令を守ら
ん。
16 さらば　我　父に請はん。
而して　永遠に、汝等と共に居るやう、
他の辯護者（パラクレート）を、彼　汝等に與へん。
17 眞理の靈（コスモ）！　世は　此（靈）を受け能はず。
これ　（世は）　此（靈）を視ず、且　識らざるが故なり。
汝等は　此（靈）を識る。

これ汝等と共に留まり、汝等に於て在るが故なり。

14 18 我汝等を孤兒として、遺さじ。
我汝等の許に來る。

19 尙暫時！而して世は最早我を視ず。
されど汝等は我を視る。
これ我活けるからに、汝等も亦活くべければ
なり。

20 かの日、我わが父に於て、汝等我に於て、
我又汝等に於て在ることを、汝等識らん。

21 わが命令を保ち、且其等を守り居る彼！
その彼は我を愛し居る彼なり。
さて我を愛し居る彼は、わが父に依りて、愛せられん。
我も亦彼を愛せん。且我己を彼に現さん。

22 イシュカリオに非ざるユダ彼に言ふ。
主よ！
何事の起りたるぞ！汝等に共に
それ汝等將に己を我等に現さんとして、
而も世に爲さざるとは！
23 イエス答へて、彼に言へり。

もし　何人にても、我を愛せば、彼　わが言を守らん。
かつ　わが父も亦彼を愛せん。
而して我等彼の許に來らん。
又我等往處を、彼と共に造らん。

14
24 我を愛し居らざる彼は　わが言を守らず。
汝等聞く所の言は　我がものに非ず。
されど我を遣しし父のものなり。
25 我　汝等の傍に留まり居りて、此等の事を語りたり。
26 されど辯護者！　わが名に於て、父の遣さん所の
聖靈！

その彼　汝等に、凡ての事を敎へん。
かつ我が汝等に言ひし所の凡ての事を、汝等に
思ひ浮ばしめん。

27 平和を我汝等に遺す。
わが平和を我汝等に與ふ。
我が　汝等に與ふるは、世の與ふる如きものに非ず。
汝等の心をして、騷がしむる勿れ、慄かしむる勿れ。

28 我汝等に「我退く。我又汝等の許に來る」と言
へるを、汝等聞けり。
もし　汝等　我を愛したらんには、汝等　喜ぶべきも

のを。
それ我父の許に進めばなり。
それ父我よりも大なる者なればなり。
14 29 今、（事の）起らざる前に、我汝等に告げたり。
これ何時にても、（事の）起りし時、汝等をして信
せしめんとてなり。
30 我最早多數の事を、汝等と共に語らじ。
そは世の長來ればなり。
彼我に於て、何をも有せず。
31 されど これ我の父を愛し、且父の我に與へ
し命令の如く、
正に斯く我の爲し居る事を、世に識らしめんとて
なり。
汝等起て。我等をして、此處より進ましめよ。

二四　告別祈禱（ヨハネ一七の一上・二・一下・三―二六）

17 1A イエス此等の事を語りて後、彼の目を、天にへと擧げて、言へり。
父よ！時刻來りたり。

（肉）人

17 2これ凡そ汝の彼に與へたる所の彼等に、
彼に永遠の生命を與ふるやう、
有ゆる肉（を治むる）の權威を、
汝彼に與へし如く、正に斯く、天にへと導
1B子の汝に榮光を歸し得るやう、
汝汝の子に榮光あらしめよ。（三・一ヨ・三―二六）
3さて永遠の生命とは此なり。
彼等が唯一の眞の神なる汝と、
汝の派遣せしイエスキリストとを識ることなり。

4我をして爲さしめんとて、汝の我に與へたる所の
業を終へて、
我地上にて、汝に榮光を歸しぬ。
5父よ！
我世界の實現以前に、汝の傍にて、有せし所の榮光
に於て、
汝自ら汝と共に、今又、我に榮光あらしめよ。
6汝世の中より、我に與へし所の
人人に、我汝の名を現せり。

汝の　我に與へし彼等は　汝の有なりき。
而して　彼等　汝の言を守りたり。
17 7 彼等　今、汝の　我に與へし程の物は
一切　汝よりの物なることを識りたり。
8 これ　汝の　我に與へし所の言を、我　彼等に與へた
ればなり。
彼等　受けぬ。而も　我　汝の處より來りしことを、
彼等眞に識れり。
尙又　彼等　汝の　我を派遣せしことを信じぬ。

9 我　彼等に就いて、請ふ。世に就いて、請はず。
されど　汝の　我に與へたる彼等に就いてなり。
それ　彼等は　汝の有なるが故なり。
10 わが一切の物は　汝の物なり。
而して　汝の物は　わが物なり。
而して　我　其等に於て、榮光を得たり。
11 我　最早　世に於て、在らず。
彼等は　尙　世に於て、在り。
而も　我　汝の許に來る。

聖なる父よ！
我等の如く、彼等も亦、正に斯く一なるやう、
汝我に與へたる所の汝の名に於て、彼等を守れ。
12 我彼等と共に在りし間、
汝我に與へたる所の汝の名に於て、
我彼等を護り居たり。而して警衛せり。
17
而も書の全うせらるるやう、滅亡の子の外、
彼等の中より一人だも亡びざりき。
13 されど今我汝の許に來る、

且彼等自らわが充實せる喜悅を有ち得るやう、
我此等の事を、世に於て、語る。
14 我彼等に汝の言を與へたり。
而も世は彼等を憎めり。
これ我が世よりの者に非ざるが如く、
正に斯く、彼等も世よりの者に非ざるが故なり。
15 我汝に世より彼等を取出せと請はず。
されど汝の、惡より出して、彼等を救はんことなり。
16 我が言世よりの者に非ざるが如く、
正に斯く、彼等も世よりの者に非ず。

17 眞理に於て、汝彼等を聖ならしめよ。
汝の言は眞理なり。
18 汝我を世にへと派遣せし如く、
我も亦正に斯く、彼等を世にへと派遣せり。
19 我彼等の爲に、己を聖む。
これ彼等も亦眞理に於て、夙に聖められんが爲
なり。
20 されど我ただ此等の者に就てのみならず、
尙又彼等の言を通じて、我に信じ入る者に就て、請ふ。

21 父よ！
汝の我に於て（在り）我の汝に於て（在る）が如く、
正に斯く彼等も亦一同ならんことを。
父よ！
これ彼等も亦我等に於て、在り、
かつ汝の我を派遣せしことを、世に信せしめん
とてなり。
22 汝の我に與へたる所の榮光を、我も亦彼等に與
へたり。
これ我等の一なるが如く、正に斯く、彼等も一な
らんが爲なり。

17 23 我は彼等に於て(在り)、汝は我に於て(在り)。
これ彼等の一に完成せられんが爲なり。
これ汝の我を派遣せし事と、又汝の我を愛せし如く、
正に斯く、汝の彼等を愛せし事とを、世に識らしめんとてなり。
24 父よ！
汝の我に與へたる所の物をば！望むらくは、
それ何處にても、我が在る處に、彼等も亦我と共に在らんことを。

これ世界の開闢以前より、汝我を愛せしを以て、
汝や我に與へたる所の・わが榮光を彼等に見しめんとてなり。
25 義なる父よ！
而も世は汝を識らざりき。
されど我は汝を識れり。
此等の者も亦汝の我を派遣せしことを識れり。
26 かつ我汝の名を彼等に識らしめぬ。
我尙(之を)識らしめん。

これ汝の我を愛せし所の愛、彼等に於て存し、我も亦彼等に於て（在らん）が爲なり。

二五　ガスシムナーの園

（マタイ　二六の三〇・三六——四六）（ルカ　二二の三九——四六）（ヨハネ　一八の一）

過越祭に謠はるるハレルヤは詩篇一一三—一一八及び一三六の七篇なり。

14 26 かくて彼等讃美を歌を謠ひて後、ザイス山にへと出往けり。

26 30 かくて彼等讃美歌を謠ひて後、ザイス山にへと出往けり。

22 39 かくて（イエス）出往きて、例の如く、ザイス山にへと進みしが、弟

18 1 イエス此等の事を言ひて後、彼の弟子等と共に、出往

キヅロン（濁る、薄黑）ガスシエムナー（油搾り）

往けり。14 32 而して「ガスシムナー」と名づくる邸にへと來れるや、（イエス）彼の弟子等に言ふ。

より、イエス弟子等と共に「ガスシムナー」と云はるる邸にへと來りて、彼等に言ふ。

子等も亦彼に隨行せり。22 40 さて、その場處に達せるや、（イエス）彼等に言へり。

き、キヅロンの溪流を渡り、彼も彼の弟子等も、其處に在りし所の園にへと入れり。

我祈る間、汝等此處に坐し居れ。

我彼處に赴きて祈る間、汝等此處に坐し居れ。

誘惑に入らざるやう、汝等祈り居れ。

ガスシエムナーの園（マルコ、マタイ、ルカ）

14 33 かくて（イエス）已と共に、ペツロ・ヤコブ・ヨハネを伴ひ、而して甚く驚き、かつ悶え始めて、34 彼等に言ふ。わが魂は死ぬる計りに、憂苦に沈めるなり。汝等此處に留まれ。而して見張り居れ。

26 37 かくて（イエス）ペツロ及びゼブダイの二子を伴ひて、憂へ、かつ悶え始め、38 夫より、彼等に言ふ。わが魂は死ぬる計りに、憂苦に沈めるなり。汝等此處に留まれ。而して我と共に、見張り居れ。

14 35 かくて（イエス）少し進み往きて、地に平伏し、もし能ふ事ならば、彼より、時刻の過ぐるやうにと祈りて、36 言ひ居たり。

アブバー！父よ！凡ての事汝に能はざるなし。汝このカップを

26 39 かくて（イエス）少し進み往きて、彼の面を伏せ、祈りて、言へるは、

……わが父よ！もし能ふ事ならば、此カップをして

22 41 かくて（イエス）自ら彼等より、石を投げ得らるる程の距離に隔たり、膝を屈め、祈り始めて、言へるは、

……42 父よ！もし汝思さば、此カップを我よ

我より運び去れ。

されど何事も我が欲する儘ならず、反て何事も汝の欲する儘ならしめよ。

マタイ

我より去らしめよ。しかし我が欲する如くならず、反て汝の（欲する）如くならしめよ。

ルカ

この使者云云は信據すべき多數の寫本に見當らざるを見れば、恐らくは後世の追加ならん。

22 43 時に、天よりの使者［イエス］に現れて、彼を強むれども、44 彼の苦悶益募りしかば、彼彌切に祈り居たり。而して彼の汗は恰も地上に滴れる血の雫の如くに成れり。

コイ

しかし我が意に非ず。反て汝の（意）を成らしめよ。

14 37 かくて（イエス）來り、睡れる彼等を見出して、ペツロに言ふ。シメオン！汝睡り居るか。汝一刻も見張ること能はざ

26 40 かくて（イエス）弟子等の許に來り、睡れる彼等を見出して、ペツロに言ふ。斯程にも！汝等我と共に一刻も見張る

22 45 かくて（イエス）祈禱より立上りて、弟子等の許に來りしが、憂苦に沈める彼等の寢込めるを見出して、46 彼等に言へり。何故に汝等睡り居るか。……

りしか。

14 38 汝等誘惑に入らざるやう、汝等見張り居れ。汝等祈り居れ。

まことや霊は逸れども、肉は弱し。

14 39 かくて

26 42 再度、（イエス）第二次に、往きて、祈れり。

こと叶はざりしか。

……。

26 41 汝等誘惑に陥らざるやう、汝等見張り居れ。汝等祈り居れ。

まことや霊は逸れども、肉は弱し。

……。

汝等誘惑に陥らざるやう、汝等立上りて、祈り居れ。

（イエス）再度、往き、同じ言を言ひて、祈れり。

14 40 （イエス）又再度來りて、睡れる彼等を見出せり。そは彼等の目、甚だ重かりければなり。而して彼等彼に何と答ふべきかを知らざりき。

26 43 （イエス）又再度、來りて、睡れる彼等を見出せり。そは彼等の目甚だ重かりければなり。

曰く、わが父よ！我、其を飲まずば、たとひ此を去り能はざるとも、汝の意をして成らしめよ。